

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0473100212
法人名	有限会社 タックス
事業所名	グループホーム 花水月
所在地 (電話番号)	遠田郡美里町叔廼前22-3 (電 話) 0229-33-1201

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成20年10月30日

【情報提供票より】(平成20年10月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤	人, 常勤換算 7 人

(2)建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/○改築
建物構造	木造	造り
	2 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 89 歳	最低	59 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鳴瀬川沿いの閑静な環境にあり、一般住宅をリフォームし平成12年に開設されたグループホームである。ハード面からは要改善点もあるが、宅老所の精神が活かされ、入居者本位で表情も明るく、家族からも信頼されていることは家族アンケートからもうかがえる。職員の提案で今夏入居者や家族、職員等と松島の温泉へ一泊旅行して親睦を深めている。法人で訪問介護やデイサービス、介護タクシー、保育園等を運営し、地域の介護サービスを担っており、ホームをバックアップしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念は職員会議で検討したが保留されている。運営推進会議は委員の人選と日程を調整している段階で開催されていない。同業者との交流はNPO県グループホーム協議会に加盟している。重度化は月2回往診があり、医師の指示を受け家族等と話し合い推進している。避難訓練は消防署と地域の参加で実施している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者と全職員が話し合い作成した。評価の意義や内容の確認等を理解し、日々のケアの気づきもあり、課題はできるものから実施し、ケアの向上に役立っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域の人々に声がけし、期日の調整をしている段階で開催されていない。ホームの運営規定第2条に「地域密着型サービスの趣旨を踏まえ、運営会議を設置する」と規定されている。基準省令にもあるように地域密着型サービスとして早急に開催し、地域に開かれた認知症介護の地域拠点として、理解していただける取り組みをしていただきたい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時介護記録を見ながら、生活状況や健康状態を報告したり、意見や要望等を聞き日々のケアに活かしている。2ヶ月に一度「花水木便り」を送付している。イベントや職員の異動などを紹介している。苦情箱や国保連等は表示されているが、第三者委員の委嘱をし、外部の人の意見や苦情が言える体制を整えていただきたい。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会には加入していない。施設長の地元で地域の人々との交流は深く、イベントの案内には入居者の体調や家族の意見等を考慮し参加している。ホームの敬老会には保育園児の歌や踊り、祭りには子どもみこしの立ち寄りがあり、入居者に喜ばれている。避難訓練には地域の人の参加もあり、非常時には協力体制が取れるよう検討していた</p>

協力医療機関名	野崎病院、野崎内科胃腸科
---------	--------------

④	だきたい。
---	-------

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価で地域密着型サービスとしての見直しを指摘されたが、独自の理念の一つとして「地域に理解と貢献する介護介助」等をスタッフ会議で話し合うも保留となっている。	○	グループホームは平成18年地域密着型サービスとして位置付けられ、理念はホームが目指すサービスのあり方を端的に示すものである。地域生活の継続や地域との関係性の強化等の使命を入れるようにしていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りで話し合い一日1回職員が声を出して読み上げ、理念を頭に入れ日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会は未加入である。地域の収穫祭や祭り等に参加、子どもみこしの来所は入居者を喜ばせている。子ども会等の訪問もあり、地域との関係を深めようと努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者と全職員で評価の意義やねらいなどを話し合いまとめた。日々のケアに気づき、課題はできるものから取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	予定の運営推進委員の日程調整が難しく、まだ会議は開催されていない。ホームの運営規定第2条に「地域密着型サービスの趣旨を踏まえ、運営会議を設置する」とあるので、早急に開催していただきたい。	○	基準省令にあるように地域密着型サービスの趣旨を踏まえ、運営推進会議を早急に開催し、地域との関係を築き地域に開かれた認知症介護の拠点として取り組むことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者にホームの運営で困ったことや惑いがある時は、随時相談して指導やアドバイスをいただいて、ホームのサービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回ホーム便り「花水月便り」を発行している。面会時に入居者の健康状態や生活状況を介護記録を見ながら報告している。金銭管理はしていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の面会時に意見や要望、苦情等を聞き出している。苦情受付箱も設置しているが、未だ苦情はなく要望が多い。国保連のポスターは掲示されていたが、第三者委員は委嘱されていない。	○	苦情や意見はサービス向上の貴重な情報源である。第三者委員を委嘱し外部の苦情等の受付窓口を設け、苦情等が話しやすい場を増やしていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者に心理的なダメージを与えないように、職員の異動を最小限にしている。異動の時は「花水月便り」に掲載し、家族等の面会時に紹介している。引き継ぎは申し送り書に記載し全職員の共有とし、馴染みの関係を継続できるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員の希望や段階に応じて受講し、研修内容を報告し全職員が共有して、日々のケアに活かしている。内部研修は看護師の介護支援専門員が担当し、マニュアル等を作成して、活用している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加入し、外部研修等に参加している。他のホームと可能な限り交流し、スキルアップに役立てようと努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームを見学してもらい、他の入居者等とお茶を飲んだり、職員等やホームの雰囲気に馴染んでいただき、心理的な不安をなくすようにしてから入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩として尊敬し、ずんだ料理や大豆の皮むき、裁縫等得意分野で生活の知恵を教えもらったり、一緒に食事の準備をしたりと支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の困難な入居者には、じっくりと接し意向を汲み取り、みんなの前で話しくさうな人には夜間じっくり向き合うようにして、表情や仕草等から読み取るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	宮城県のアセスメント151と東京センター方式の心身の情報様式(私の姿と気持ちシート)を活用している。入居者や家族等から希望等を聞き、全職員で意見交換やカンファレンスを行って、担当者会議で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の身体状況に変化がある時は、入居者や家族等と再度面談し、希望や意見、今後の方向を話し合っている。東京センター方式を活用した再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開き、介護計画の見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人で通所介護や訪問介護、介護タクシー等を運用しているので、その多機能性をホームでは有効に活用し、通院や送迎、特別な外出には臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の検診を毎月2回受け健康管理を行い、往診・受診記録をつけている。かかりつけ医の受診は原則家族の付き添いとなっているが、要望があればホームで対応している。歯科の協力はまだ得られていないが、義歯の調整や口腔ケアも考えていただきたい。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	食欲が落ち点滴が必要になれば、入院治療等主治医のアドバイスなどに従い、今後の方針を「重度化、終末期ケアの指針」を基に入居者や家族を交え話し合っている。緊急時には協力医療機関で対応してくれるよう検討している事に期待したい。	○	ホームの基本的な「重度化・終末期ケア対応指針」を成文化して、入居者や家族、職員等で話し合いして共有し、「終の棲家」の要望に応じていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送りや職員会議で話し合い、言葉遣いや排泄時の声がけ等はプライバシーに配慮して自尊心を傷つけないように心がけている。ガラス戸に機能的なカーテン等を検討している。個人情報は事務所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールはあるが、職業歴や生活歴を考慮し、入居者の生活リズムを把握し、本人のペースで生活できるよう柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを活かし、民謡を聞きながら和やかに職員も一緒に食事をしている。台所が少し離れているので、ホールでできる食事の準備や野菜の皮むき、配膳等を一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回入浴日を決め、夏場は毎日シャワーを使用している。入浴拒否者はいない。毎日入浴や夕食後の入浴等を希望する場合は要望に応えられるように検討していただきたい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできること、できないことを把握し残存能力を活かして、野菜の皮むきや食事の準備、後片付け、洗濯物のたたみ方や縫い物等、得意分野で力を発揮できるようにさりげなく支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は入居者の希望で、散歩や花見、ドライブ等に出かけている。今夏、職員の提案で松島へ一泊の温泉旅行を家族等の協力でい入居者等に喜ばれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず、出入りは自由であるが、夜間は防犯上施錠している。入居者の行動傾向を把握し、さりげなく見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で避難訓練を実施している、地域の人を交え消火器の取扱い方法を学んでいる。レトルト食品や缶詰、薬や水等が備蓄されている。防災マニュアルを整備し、災害時には地域の人々の協力を得ていただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分が不足の場合、嗜好に合わせ粉ミルク粥等の栄養補助食を用いている。メニューは入居者の要望を加味したものが、栄養士の専門的な視点でチェックを受け、栄養のバランス等にも配慮していただきたい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の段差はスロープになり、車椅子でも自由に行き来できる。広縁にソファーやテーブルを用意し、自由にくつろげる場を作っている。一般住宅同様の生活の匂いがあり、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや家族の写真等で安心して過ごせるように配慮してある。保育園児やボランティアの折り紙等が飾られ、家庭的な雰囲気を醸し出している。居室と隣室のガラス戸等に、安全面やプライバシーを配慮し、機能的なカーテン等での工夫をしていただきたい。		